



異常高温！水不足！環境激変～土作り強化が明暗を分けます！！

今年は、ますます栽培環境が厳しくなっていました。生産力に直結する土づくりは、今からでも遅くありません。手間がかかっても丁寧な土作りは、期待を裏切らないのではないのでしょうか？

作物の吸収力を維持するには、加里が必要です。

この夏は、すでに渇水被害が報じられており、水量確保が厳しいケースが増えてきました。手塩にかけた作物を守る対策としては・・・

①	通常より多い水を補給
②	過剰蒸散防止、遮光資材を使用
③	根張り(根量・根圏)を良くする
④	作物の体力を引き出す肥培管理を行う
⑤	作付け計画(時期)見直し
⑥	耐乾性の強い品種を栽培

※天水(てんすい) 圃場で大幅に水不足となる場合の対策は、かなり難しいですが、①～⑥を駆使して何とか収穫まで漕ぎつきたいものです。

暑さへの対策として、作物が水とともに土壌養分を吸収しやすくしてやるのが大切です。ここでポイントになる栄養素は「加里」です。

加里は人体で言えば『塩』に当たります。酷暑で人が水分と塩分を摂取するように、作物にも水と加里が必要です。(浸透圧を維持して水分吸収/維持を促進)。

加里は、主に肥料から補給されていますが、酷暑の環境では通常より少し多め(+5～10%程度)に施用しておくとうまいでしょう。



土壤診断によって不足と思われる場合は、交換性加里の値が20mg/100g以上を目標に補給すると良いでしょう。

注意：作物や産地ごとに目標値が変わるので、上記量は目安です。
10mg/100g以下では各作物減収や障害発生が心配です。)

オススメ商品



く溶性 カリ	内水溶性 カリ	含 有 けい酸	く溶性 りん酸	く溶性 苦土	く溶性 ほう素	その他 微量元素 含有
20.0	17.0	30.0	1.0	4.0	0.05	



酷暑を乗り切るための対策として酢酸をお勧めします。
食物は乾燥や暑さなど環境ストレスを感じると植物自身が酢酸を合成し、耐性遺伝子活性化物質ジャスモン酸(植物ホルモン様物質)が活性化されます。

そこで植物に環境ストレスがかかる前に酢酸を植物に与える事でこのジャスモン酸が活性化することがわかってきました。(理化学研究所)

この酷暑の環境下ではカルシウムの消費量も激しくなりますので、酢酸とカルシウムを同時に供給できる“ティセルカル”や“キドカル”の定期散布(5～7日に1回)を勧めています。



川口肥料株式会社

〒437-1416 静岡県掛川市三俣902

☎ 0537-72-2663



川口肥料 HP



松下ライン